



平成三十年六月七日

皇紀2678年
(西暦2018年)
第167号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

暑くなったり肌寒かったり

寒暖差が激しいですね

これを書いているのは六月七日です。

先月末に九州北部も梅雨入りし、全国的にも各地方が次々と梅雨入りしているようです。

気象衛星の画像を見ると、日本列島に沿うような形で、長さ数千キロにわたる帯状の雨雲がかかっております。今この松浦上空にかかっている雨雲は、その数千キロの長さを持つ雲に連なるもので、それを考えると、壮大な循環の中にあることが感じられますねえ。

湿気が多く大変な季節ですが、皆さまにおかれましては、衛生面に気をつけて、食あたりなどにならないように十分に注意して過ごしてください。



神社うんちく帖

さて、今回も『古事記』神話のご紹介です。ご存じイザナギ・イザナミの登場です。

◆伊邪那岐神・伊邪那美神

(いざなぎのかみ・いざなみのかみ)

やつと有名な神さまの登場です。

ご存じの通り、こちらの二柱は夫婦神です。

前回までご紹介した神さまたち。

○國常立神・豊雲野神(独り神・各一代)

○宇比地迺神・須比地迺神(男女の神)

○角杵神・活杵神(男女の神)

○意富斗能地神・大斗乃辨神(男女の神)

○於母陀流神・阿夜訶志古泥神(男女の神)

この神さま方六代(男女の神は対で一代)

そして伊邪那岐神・伊邪那美神を含めた七代を「神世七代(かみやななよ)」と言います。

この神世七代の神さまたちによって、この世界が完成を見ます。

◆天沼矛と淤能碁呂島

伊邪那岐神と伊邪那美神がまず手がけたのは、ご存じの「國生み」です。

高天原の神々は、この二柱の神さまに「この漂える国を修理り(つくり)め固め成せ」と命じ、天沼矛(あめのぬぼこ)を授け賜います。

伊邪那岐神・伊邪那美神たちは、高天原と地上を繋ぐ「天浮橋」に立ち、まだ固まっていな

い国に天沼矛をさしてかき混ぜます。海水をごろごろとかき回して矛を引き上げたときに、その矛の先から塩が垂れて積もってきたのが「淤能碁呂島(おのごろじま)」です。

◆天御柱と八尋殿

二柱の神さまはこの島に降り、神聖な「天御柱(あめのみはしら)」を出現させ、続いて「八尋殿(やひろどの)」を出現させました。

この下りは『古事記』原文では次のように記されています。

「見立天之御柱、見立八尋殿」

この「見立て」は諸説あるようですが、多くの場合は「その霊的な力によって(なにもないところから)たちどころに生じさせる」という意味と捉えられているようです。

最初にできた淤能碁呂島に天御柱と八尋殿が建てられ、そしていよいよ本格的な「國生み」が始まります。

◆「いざな」う神々

その前に、この神さまたちの名前の中にある「いざな」という言葉。これは「いざない」という意味に通じると言われています。漢字で書く「誘い」であり、お互いを誘い合、結ばれることを表している名前だと言えます。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。